



日本作物学会会長候補者の立候補・推薦届け





1. 候補者所属機関・役職・氏名
筑波大学生命環境系・教授

丸山幸夫 

2. 推薦者所属機関・役職・氏名

(1) 九州大学大学院農学研究院・教授・上野 修 

(2) 東京大学大学院農学生命科学研究科・准教授・山岸 响子 

(3) 京都大学農学研究科・教授・白岩立彦 

3. 候補者経歴（職歴、会員歴、役員歴）

職歴：1976年4月 農林水産省（北陸農業試験場，農業技術研究所，農業生物資源研究所，
農林水産技術会議事務局，大臣官房，農業研究センター）

2000年4月 農業技術研究機構 作物研究所

2003年4月 筑波大学 教授（現在に至る）

2012年4月 筑波大学 生命環境学群 生物資源学類長（2014年3月まで）

2014年4月 筑波大学 生命環境学群長（現在に至る）

会員歴：1976年～現在

役員歴：1996年～現在 評議員（この間、学会賞選考委員，シンポジウム委員，英文誌編集委員，
将来構想検討ワーキンググループ委員，海外交流推進委員など）

2004～2005年 学会戦略ワーキンググループ座長

2006～2007年 英文誌編集委員長

2008～2009年 関東支部長

2010～2011年 財政検討ワーキンググループ座長

2012～2015年 副会長

4. 選挙公約

本会は2017年に創立90周年を迎え、英文誌は20号を刊行します。この間、学会誌の刊行や講演会の開催などの活動を通して、本会はわが国の作物生産における理論の構築と技術の確立に大きな役割を果たしてきました。しかし、近年の作物生産に関する課題が遺伝子から地球規模まで多様化、広範化、国際化する一方、関連組織の縮小に伴う会員数の減少や科研費の獲得機会の制約などにより、学会活動の多面的な展開を支える人的資源と財政基盤の維持が困難になりつつあります。これらの問題に対し、本会は歴代会長の下、学会誌の機能強化、国内外の関連学会との連携、若手・女性研究者の育成、出版部の設置、情報化の推進などの諸施策を講じてきました。このような中で、これまでの基本方針を継承しつつ、現在の学会規模と財政状況も考慮しながら、以下を重点に学会運営に取り組みたいと考えています。

- (1) 効率的な学会運営と収入増加方策による学会財政の健全化
- (2) 学会誌の対外的な発信力の強化と投稿促進ならびに掲載論文数の増加
- (3) 講演会の国際化，学際化および効率的運営
- (4) 国内外の関連学会との連携強化と第7回国際作物学会議（2016年、北京）および第9回アジア作物学会議（2017年）への参画
- (5) 若手・女性研究者の育成